

令和7年度 学校評価自己評価表 (最終評価)

三次市立和田小学校

<p>【学校教育目標】 つながりを大切にし、自ら考え、行動・挑戦する子供の育成</p> <p>【めざす子供像】 つながる子 考え行動する子 挑戦する子</p> <p>◎つながる子 (ひとものことと関わる子、認め合う子) * 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養【主体性】【協働性】</p> <p>◎考え行動する子(学ぶ喜びを感じる子、考え行動する子)</p> <p>◎挑戦する子 (自分の夢や目標に向かって挑戦する子) * 生きて働く知識・技能の習得【知識・技能】 * 未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力等の育成【思考力】【判断力】【表現力】</p>	<p>【使命・存在意義】 なりたい自分の夢の実現のために、和田のひと・こと・ものとの対話を通して多様な体験活動を通して、ふるさと和田への郷土愛を育むとともに、変化に対応して生きる力を身に付けた人材の育成に貢献する。</p> <p>【評価基準】 (達成値)÷(目標値)×100の値 A: 目標を達成(100以上) B: 目標をほぼ達成(85以上100未満) C: 目標を下回る(75以上85未満) D: 目標を大きく下回る(75%未満)</p>
---	---

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価項目	中間目標値	最終目標値	中間評価値(10月)	最終評価値(2月)	結果と課題の説明	改善計画	関係者評価	(ご意見)学校関係者評価 A: 適切 B: 不適切 C: 改善が必要
確かな学力の定着	基礎・基本の力活用力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい授業、個に応じた指導により、基礎・基本の力を確実に身に付ける。 ・ICT等の活用により、思考を深め、表現するとともに、学びを整理・蓄積する。 	・児童アンケート「授業が分かる」85%以上	95%	98%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートで「授業が分かる」と回答した児童は98%で、目標値を上回った。 ・単元末テスト(国算理)「思考力・判断力・表現力」における基準以上の児童の割合は80%であり、目標値を下回った。 ・学習環境の整備や、個に応じたワークシート、ヒントカードの作成等、学びの選択肢のある授業作りを行うことで、児童の学習意欲につながった。 ・全学年自主学習に取り組んだ。定期的に自主学習ノートの掲示を更新することで、友達ノートを参考して生かすことができた。 ・学力の定着に個人差があるため、授業中やパワーアップタイム、休憩時間等を活用して個別指導を行うことで、基礎学力の定着を図っているが、十分ではない。 ・校内授業研修(年間12回)を計画的に行った。有効だった手立てや他のアイデア、今後の取り組みを協議したことで研修が深まり、指導者自身の授業改善につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科の思考力・判断力・表現力の観点の達成率が73%と低かった。公式を用いた応用問題では、読み取りに課題があるため、教科書の補充問題やつまづきやすい問題プリントを活用し学力の定着を図る。 	A	少人数を生かし、子供一人一人へ丁寧に学習を行っている。
			・職員アンケート「見方・考え方を働かせた授業の実施」85%以上	96%	80%	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員アンケート「各教科の見方・考え方を働かせた授業の実施」について肯定的回答をした教職員は83%と、目標値を下回った。 ・児童アンケート「解決方法を考えながら学習を進める」と肯定的回答をした児童の割合は97%と目標値を上回った。 ・児童は問題解決に向けて主体的に活動を進めることができた。また理科では、「比較」「関係付け」の考え方を意識した授業づくりを行った。 ・各教科の授業において見通しをもたせて解決方法を考える場や、考えを深めるための協働的な場の設定を行うことで、主体的な問題解決につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き、自主学習やパワーアップタイムを行い、基礎学力の定着を図る。 ・個別最適な学びの考え方を生かした単元内自由進度学習(年2回程度)、コース別学習、ヒントカード、コーナーの作成などの授業構築を行い研修の継続を図る。 	A	学校は学力向上のための取組を進めており、学力向上が図られている。三次市学力到達度検査の結果からも、学校の取組は評価できる。
	主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が疑問や気付きをもち、解決する学習を仕組む。 ・児童自ら考えて取り組む学習をファシリテートする。 	・職員アンケート「見方・考え方を働かせた授業の実施」85%以上	89%	83%	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員アンケート「各教科の見方・考え方を働かせた授業の実施」について肯定的回答をした教職員は83%と、目標値を下回った。 ・児童アンケート「解決方法を考えながら学習を進める」と肯定的回答をした児童の割合は97%と目標値を上回った。 ・児童は問題解決に向けて主体的に活動を進めることができた。また理科では、「比較」「関係付け」の考え方を意識した授業づくりを行った。 ・各教科の授業において見通しをもたせて解決方法を考える場や、考えを深めるための協働的な場の設定を行うことで、主体的な問題解決につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科で身に付けた比較・関係付けの考え方を他教科へつなげる教科横断的な指導や、活用できる場の設定を意図的に行う。 	A	全員の子供が分かる授業を目指して研究授業(年間12回)を実施したり、授業改善のための取組を進めていることがわかる。
			・児童アンケート「解決方法を考えながら学習を進める」85%以上	97%	97%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も授業研修を計画的に行い、指導者の授業力向上に努める。 	A	授業参観では、先生の子供への問いが考え方を引き出すような問い方でよかった。また、子供の発言を待つ姿勢も素晴らしい。	
豊かな心の育成	人を思いやる心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣を身に付け、豊かな感性(知識力・想像力・集中力・語彙力)を育む。 ・道徳など教育活動全般において、人とつながる心を育む。 	・読書目標(低:月8冊、高:月4冊又は600ページ)を達成した児童の割合80%以上	77%	79%	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・記録カードの記入が定着している学年は、どの月も目標値を達成できている。図書委員会、職員、にじの会の読み読みの機会が多々さん本は読んでいる。しかし、未記入の児童もあり、11月は達成率が55%と低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、児童がより達成感を得て読書を継続できるよう読書記録カードの改善をする。 	A	目標数値が高いとは思いますが、よく達成できている。
			・児童アンケート「自分や友達のことを大切にしている」80%以上	88%	82%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が悪いと思ったら、相手に自分からあやまることができる児童は79%(中間79%)。友達に悪口を言ったり、嫌がることをしたりしない児童は77%(中間63%)。困っている友達に、やさしく声を掛けることができる児童は89%(中間92%)であった。 ・年間を通して、相手の気持ちを考える言動の指導や肯定的な評価を行ってきた。その結果、相手のことを考えながら生活しようとしている児童が増加したと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、図書委員会によるイベントを開催することで、図書室を利用する機会を増やし、読書推進を図る。また、読み語り有效果的だったため、図書委員会の読み語りを月1回に増やしたい。 	A	図書委員会の活動の充実、毎月の「にじの会」読み語りなどの継続で、豊かな心が養われている。昨今の活字離れの影響から読書する子供が減っていると聞いているので、継続して行ってほしい。
	人権意識、自己有用感の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・縮割り班活動、委員会活動、学級活動等で他者と協働して取り組む。 	・児童アンケート「レベル3(相手の目を見て)の挨拶ができた」85%以上	83%	75%	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の目を見て挨拶ができた児童は、75%(中間83%)であった。 ・毎月、和伸会によるあいさつ運動を行ってきたが、目を見て挨拶ができる児童は固定化している。1月の始めに塩町中学校区の挨拶動画を見たり、全校指導を行ったりすることで、75%の児童は意識しながら生活できている。全体指導後、特に高学年は意識して挨拶をするようになりつつある。 ・係や当番、委員会、掃除などの仕事を忘れずしている児童は91%(中間78%)。友達と協力している児童は95%(中間95%)。自分の意見を言い、話し合いに参加している児童は73%(中間63%)であった。 ・学習発表会や校外学習などの活動を通して、クラスの団結力が高まっている。しかし、児童の自己評価と指導者評価との間に差がみられたり、掃除に時間いっぱい取組めていなかったりするなどの課題がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階に応じて成長の過程を認めつつ、自分の考えを表現することによる自己有用感や自己肯定感を感じられる取組が必要である。また、自分の仕事や決められた役割を果たすことができるよう指導し、環境を整える。 ・挨拶については、指導者が意識して名前を読んだり目を見て挨拶をしたりするとともに、執行部を中心とした取組を継続する。今年度行った地域やC.Sと連携した挨拶運動を行い、挨拶の活性化につなげたい。 	A	挨拶は個人差があり一概には評価できない。日常を見ていると、子供はよく挨拶しよく指導されていると感じる。
			・児童アンケート「学級や学校の役に立っている」80%以上	81%	86%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「学級や学校の役に立っている」80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域をうまく活用し、子供の自己肯定感が高まる学習を工夫してほしい。 	A	
健やかな体の育成	基本的な生活習慣を身に付け、健康でたくましく生きる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科の授業、委員会等の児童の主体的な取組により、体力づくりを進める。 	・職員アンケート「体育科の授業、委員会、体育的行事の充実」85%以上	100%	100%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員アンケート「体育科の授業の充実」は100%であった。 ・児童がめあてを意識できるように、運動のポイントや気を付ける点を、体育授業の導入で確認をした。授業の終わりに児童の発達段階に合わせた振り返りしたり、次の時間の自分の目標を決める時間を設けたりしている。 ・春の新体力テストで課題がみられた握力を向上させるため、保健委員会活動でトレーニング動画を作成し、冬季休業前に全校に配付した。また、フックホールドコーナーを設け、いつでも握力向上トレーニングに活用できるよう環境を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月末までに、握力の2回目の測定を実施予定である。1回目の結果と比較して、取組の効果について検討し、次年度に生かしていく。 ・引き続き、児童実態を把握し、新体力テストで課題の部分を中心に取り組み、児童の体力向上を図る。(委員会の動画作成、種目に合わせた準備運動、講師の招聘など) ・派遣事業などを活用し、児童が体験したことのない種目や様々なスポーツを体験できる機会を設けていきたい。 	A	体力づくりが継続して行われていてよい。講師もよばれて体験的に学ぶところが良い。
			<ul style="list-style-type: none"> ・メディアの使用の仕方を自ら管理し、健康な生活を送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・保護者アンケート「家でのメディアルールが守られている」80%以上 ・保護者アンケート「我が子の使用実態を把握している」80%以上 	76%	80%	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「家でのメディアルールが守られている」についてのアンケート結果は、児童は80%、保護者は81%であった。目標値を上回った。 ・しかし、学校生活アンケートの「わが子は普段の生活でメディアルールを守れている」という保護者評価では33.4%であった。(中間29%) ・「わが子の使用実態を把握している」についてのアンケート結果は91.7%であり、中間評価より向上している。 ・塩町中学校区でメディア使用について共通の項目でアンケートをとり、各校でみられた課題についてまとめた。さらに、学区メディアだよりを全家庭に配付し、児童生徒・保護者に啓発することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア使用については、学校だけでなく家庭の協力も必要不可欠であることから、学級懇談会や個人懇談会で各家庭と連携をしっかりと行う。 ・引き続き、2カ月に1回のメディアウィークを実施し、自分のルールを再確認し、普段から気を付けるように声掛けを行う。 ・次年度は「寝る1時間前まで」を意識できるように、おうちのメディアルールに「就寝時刻」を意識したルールを作成する欄を設ける。 	B
信頼される学校	家庭・地域と連携・協働した教育活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育を基盤とし、地域・保護者と連携・協働して教育活動を推進する。 ・学校運営協議会の意見を学校運営に生かす。 	・保護者アンケート「教育活動に関する肯定的評価」80%以上	87%	95%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果から、「学校の教育方針がわかる」「教職員は熱心に取り組んでいる」「児童の力を伸ばす教育をしている」の項目いずれも、肯定評価は95.8%であった。目標値を上回った。 ・地域を生かした学習を各学年で進めている。1年(さつまいも栽培、綿花栽培)、2年(地域探検、田淵ファーム)、3年(赤そば、福田パン)、4年(西平牧場、しいたけ栽培)、5年(米づくり、狂言太鼓)、6年(ぶどう栽培、寺町歴史学習)など、多様な体験を地域の方の協力でやっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの地域協働活動において小中連携を図り、中学校と運動させた取組を充実させる。 ・日々の授業実践や学力向上の取組を充実させるとともに、些細な出来事も保護者連絡するなどの保護者連携を密にしていきたいことで、学校への信頼度を向上させる。 ・1月に実施した三次市学力到達度検査の結果を、学校により等で保護者へ説明する。 	A	コミュニティ・スクールを生かし、地域と学校が一体となった取組を今後も進めていきたい。塩町中学校区の学校間での交流があって有効だと思う。
			<ul style="list-style-type: none"> ・総合質問紙調査(表現力、協働性、主体性)平均以上 	95%	104%	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・塩町中学校区共通の資質・能力(表現力、主体性、協働性)については、全国平均比104%であり目標値を達成した。(中間は表現力に課題があった。)和田小5、6年で分析すると、「相手の話を聞いて発言する(表現力)」ことが高く、「将来の夢や目標がある(主体性)」ことが低い傾向がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合質問紙調査の結果を踏まえ、塩町中学校区(C.S)の共通の取組を継続する。学区の教務主任が中心となり学級づくりや授業づくりを各校で工夫したり、表現力・主体性・協働性の取組を具体化したりして、資質・能力の向上を目指す。 	A	資質・能力を学区共通としているところがよい。全体的には向上しているように思われるが、さらなる取組を期待する。中学生をリーダーにして、小学生とともに活動できる学習があればよいのではないかと。
働き方改革の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善の推進、職員のタイムマネジメント力の向上を図る。 ・職員の超過勤務月45時間以内100%以上 ・働きがいを感じる教職員85%以上 	・業務改善の促進のため、退校時刻を17:30(火)、18:00(水、木、金)としている。また、児童下校時刻を毎月2、4週の水、金曜日を14:40下校としたことで、職員の教材研究時間が確保でき、業務改善につながっている。	100%	100%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、定時退校時間の徹底や、計画年休の取得を進める。 ・効率的な職務運営ができるように、各部会の主体的な運営を指導する。 ・働きやすい職場にするため、職員への日常的な声かけなどを行いストレスなく働ける職場環境を構築する。 ・引き続き、超過勤務時間が月45時間以上0%を目指して、働き方を再考する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月から1月までの超過勤務時間は、平均20.6時間(中間20.7)であった。月45時間以上の職員は0%である。 ・ストレスチェックのデータによると、本校の職員の「職場のストレスが少ない」「働きがいがある」と回答した割合が高い。また、「上司、同僚からの支援がある」の項目も高かった。平均より高い数値となっている。 	A	先生方の仕事がいよいよ大変にならないよう工夫した働き方をしてほしい。ストレスなく仕事ができる環境が構築できている。